

## 今日のシライ中

## 本の翼

白井中学校図書室から VOL.5

「新しい生活様式」というフレーズ。昨今の話題の中で、よく耳にするようになったフレーズです。今まで当たり前だと思っていたことも、違う視点で見れば、存外、新しい気づきに結びつくのかもしれませんが。ルフィーも歌っているではありませんか！「つまり、ピンチはいつでもアピールできるいいチャンス！」です。今回は、そんな本を紹介します。

## 『理科好きな子に育つふしぎのお話365』 自然史学会連合

「365」という数字を見て、勘のいい方ならわかりましたね！そうです。この本には、1年365日、それぞれの日に一つずつ、「理科の不思議」が詰まっています。自分の誕生日の話題は何だろう？とか、好きなあの子の出席番号の日は？とか、様々な楽しみ方もできますね。もちろん、載っている話題は、専門家監修による情報です。

例えば、私の誕生日の話題は「歯のない鳥たちは食べ物はどこで噛み砕くの？」です。あるいは、これから迎える「梅雨」の季節。6月1日は「梅雨ってなんだろう？」という話。なにしろ、365日分話題はありますから、誰にでも自分の話題が、少なくとも一つはある、というわけです。「どうして渡り鳥は迷子にならないの？」「カタツムリは殻をとればナメクジになる？」「サメは虫歯にならない！」「ダンゴムシは海からやってきた」などなど。

身近な不思議がたくさん載っています。友達同士、自分の誕生日にまつわる不思議自慢をするのも楽しいでしょう！イラスト豊富な、わかりやすい、1ページ読み切りの本です。ぜひ、図書室で手に取ってみてください。（子供の科学という雑誌を知っていますか？その特別編集の本です。）

## 『最後の秘境 東京藝大』 二宮敦人

皆さんは、「芸大」をご存じですか？日本で賢い大学と言ったら「東大」（最近はずいぶん活躍中ですが・・・）を挙げる人が多いのではないかと、思いますが、この「芸大」は、芸術分野を目指す人たちにとっては、神の領域に入る学校の一つです。ただ、そこに集う人々の日常は、さすが芸術家！我々の常識では推し量れない「天才たちのカオスな日常」です。奥さんが「芸大」の学生である、作家「二宮敦人」さん。

ある日の奥さんのいでたちを見て、ぎょっとします。夜中、ふと気づくと奥さんの姿が見当たらない。明かりを頼りに覗いてみると、そこには、顔面に半紙を貼り付けた奥さんの姿。ホラー小説ならここで、「見・た・な〜！」となるところですが、「日常」なのでそうはなりません。奥さんは、自分の「型」を取っていたのです。どうですか？こんな愉快的「日常」。

さてさて、そんな「芸大」生も、いつかは卒業して、社会に巣立つ日がくるのです。ところが、ここからの肝の据わり方がすごい！普通、大学を卒業したら、就職活動等をして、どこぞにお勤めをして・・・と考えるのが一般的ですが、『楽理科』卒業生の談。「アーティストになれるのは一つまみ。」と、あっさり。「他の人は卒業後何してるの？」「半分くらいは行方不明よ。」えっ！本当ですか？本当なのです。どうです、続きを読みたくありませんか？世の中、いろいろな価値観があるんだなあ〜と思わせてくれる一冊です。

